
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2015年1月～3月）

気 象 庁

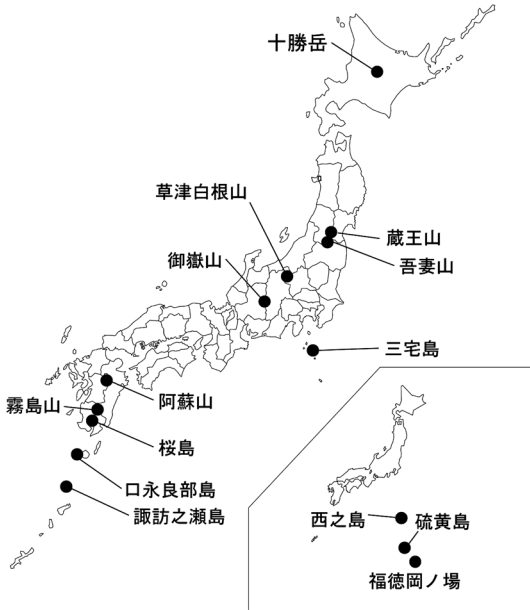


図 1. 2015年1月～3月に目立った活動があった火山

十勝岳 (43° 25′ 04″N, 142° 41′ 11″E)

GNSSによる観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められており、2014年7月ごろから北海道立総合研究機構地質研究所が観測している62-2火口付近の観測点で変化率が大きくなっていったが、2014年12月頃から鈍化しており、浅部の膨張は停滞している可能性がある。なお、マグマの動きによる考えられる深部の地殻変動は認められなかった。

また、2014年12月上旬から低下傾向が認められていた62-2火口及び大正火口の近傍に設置してある地震計の常時微動の振幅レベルは、1月以降は横ばいで推移しており、浅部の熱水活動は2014年12月頃と比較して低下した状態で安定している可能性がある。

蔵王山 (38° 08′ 37″N, 140° 26′ 24″E)

火山性微動が1月に1回、2月に1回発生した。微動発生前後の地震活動に変化は見られず、傾斜計でも変化はみられなかった。

1月14日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜周辺に噴気及び地熱域はみられず、前回の観測（2014年11月20日）と比較して、丸山沢噴気地熱地帯の噴気と地熱域にも大きな変化はなかった。

吾妻山 (37° 44′ 07″N, 140° 14′ 40″E)

1月28日及び2月14日に火山性微動が発生し、微動発生時には傾斜計の変動がみられた。

火山性地震は2014年12月から1月にかけては増減を繰り返しながらも多い状態で推移し、1月14日の地震回数193回、1月の月別の地震回数744回は1998年以降の地震回数として最多となった。その後の月別の地震回数は2月は165回、3月は81回と減少し、やや多い状況となった。

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いており、東北地方整備局が設置している浄土平火口カメラによる観測では、2月5日にはこれまで噴気みられなかった領域から噴気が上がっていることを確認し、3月16日に福島県の協力により実施した観察では、火口外の北西側に新たな融雪域と弱い噴気を確認した。

草津白根山 (36° 38′ 38″N, 138° 31′ 40″E)

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、その後、消長を繰り返しながら多い状態が継続していた。2014年8月20日以降はやや少ない状態で経過していたが、1月24日及び2月23日から24日にかけては一時的に火山性地震が増加した。

GNSSによる観測では、湯釜を挟む基線で2014年4月頃からわずかな伸びの変化が継続している。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動も継続している。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞している。

3月16日に群馬県の協力により実施した上空からの観測では、赤外線映像装置による観測では、引き続き湯釜火口壁北側、北側噴気地帯に地熱域が認められた。また、前回の観測（2014年12月10日）でみられた湯釜火口壁北西側の高温域も引き続き認められた。

御嶽山 (35° 53' 34" N, 137° 28' 49" E)

三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上 100~700m の高さで経過した。

3月25日に長野県消防防災航空隊の協力により実施した上空からの観測では、白色の噴煙が剣ヶ峰山頂南西側の火口列から引き続き認められ、硫化水素臭が噴煙の風下側で認められた。火口列の高温域の分布は、前回(1月16日)の観測と比べて特段の変化は認められなかった。

山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおよそ100~300トンとやや少ない状態で推移した(観測データはいずれも速報値)。

火山性地震は2月14日に一時的に増加したが、その他の期間は少ない状態で経過した。2014年8月以前の状態には戻っていない。

剣ヶ峰山頂の南東約3kmに設置している傾斜計及び国土地理院のGNSSによる観測では、火山活動の高まりを示す変化は観測されなかった。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今期間実施した現地調査では、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

西之島 (27° 14' 49" N, 140° 52' 28" E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

3月25日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、新たな陸地の大きさは、東西方向に約2,000m、南北方向は約1,800m、面積は約2.45km²になっている

のが確認された。

硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、1月及び2月に一時的に増加したが、全体としてやや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。

地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起の傾向、9月頃から停滞・停滞を繰り返し、1月中旬頃から隆起速度が上がっていたが、隆起は2月中旬頃からいずれも鈍化している。

福徳岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)

今期間、第三管区海上保安本部、海上自衛隊により実施した上空からの観測及び海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E (中岳))

中岳第一火口では、断続的な噴火が発生しており、3月21日には灰白色の噴煙が火口縁上1,400mまで上がった。

中岳第一火口周辺で観測された1月6~30日の降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所で3,350g/m²、阿蘇市役所で189g/m²、3月2~31日の降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所で2,442g/m²、阿蘇市役所で175g/m²であった。また、熊本大学教育学部が実施している降灰観測によると、2014年11月から25日の噴火開始から2月2日までに噴出した火山灰の総量は約150万トンと推定されている。

1月13日夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上300mの高さまで上がるのを確認した。また、2月2日、9日、18日、20日に実施した現地調査では、141火口から大きな鳴動とともに火山灰が噴出し、時折、火口内で噴石が上がっているのを確認した。南側火口壁からは、白色の噴煙が噴出しているのを観測した。2月20日に実施した現地調査では、これまでの噴火活動により、中岳第一火口南側付近に火山灰やスコリアが6~26cm堆積しているのを確認した。

2月23日に熊本県、2月27日に九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、中岳第一火口内では火山灰などの堆積が認められ、141火孔から有色の噴煙を上げているのを確認した。2014年11月27日の観測時よりも堆積量は増加しており、141火孔周辺ではすり鉢状の地形が認められた。赤外熱映像装置による観測では、141火孔及び南側火口壁周辺で引き続き熱異常域が認められたが、熱異常域の状態に大きな変化は認められなかった。

火山性微動は、3月9日以降やや小さくなる期間があったが、概ね振幅の大きな状態で継続し、噴火に伴う空振を時々確認した。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり800~3,700トンと概ね多い状態で経過した。

GNSSによる観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは3月頃から停滞している。

霧島山（新燃岳）(31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

3月20日から26日にかけて、新燃岳直下を震源とする火山性地震がやや増加した。21日には32回発生し、月回数は139回と増加した。震源は、新燃岳付近のごく浅いところから海拔下1km付近に分布した。

3月1日に継続時間1分未満の振幅の小さな火山性微動が1回発生した。火山性微動を観測したのは2012年2月1日以来である。

GNSSによる観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられていたが、1月頃から停滞している。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）(31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E（硫黄山）)

えびの高原（硫黄山）周辺では、地震活動が継続しており、1月には36回、2月には34回、3月には45回観測された。2月2日13時50分には、硫黄山付近の海拔下2kmを震源とする、えびの高原で揺れを感じる地震(M1.2:暫定値)が発生した。火山性微動は観測されなかった。

2月3日から6日頃にかけて、韓国岳北東観測点の傾斜計で、北西方向がわずかに隆起する変動が観測された。

GNSSによる観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013年12月頃からみられた伸びの傾向は、1月頃から停滞している。

1月12日及び20日、3月15日から18日に行った現地調査では、硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められず、

赤外熱映像装置による観測では、硫黄山及び韓国岳北側に熱異常域は認められなかった。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は1月が113回（そのうち爆発的噴火は61回）、2月が154回（そのうち爆発的噴火は88回）、3月が272回（そのうち爆発的噴火は過去最多の178回）であった。爆発的噴火のうち3回（1月2回、2月2回、3月1回）では、大きな噴石が3合目まで飛散した。また、3月17日15時37分の噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約600m流下した。昭和火口で火砕流が発生したのは2014年7月4日以来である。噴煙の高さの最高は、1月23日20時36分に発生した爆発的噴火による火口縁上4,000mであった。1月及び3月に実施した現地調査では、桜島島内の鹿児島市有村町付近(昭和火口の南側約3km)で、昭和火口の爆発的噴火に伴って落下したと推定される最大約2cmの小さな噴石(火山れき)を確認した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

3月31日07時27分に桜島島内を震源とする地震(M2.8:暫定値)が発生し、鹿児島市東郡元及び鹿児島市祇園之洲町で震度1を観測した。同日、鹿児島地方気象台が実施した聞き取り調査では、桜島の南側を中心に、体を感じる揺れがあったことを確認した。桜島島内を震源とする地震で、震度1以上を観測したのは、2012年4月28日の震度1の地震(M1.6)以来である。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過したが、震度1を観測した3月31日を中心に一時的に増加した。また、噴火に伴い火山性微動が発生し、中には空振を伴った振幅の大きなものも発生した。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,600~5,000トンと一時的に多い状態だった。桜島で5,000トン以上の二酸化硫黄が観測されたのは、2012年10月29日以来である。

島内の傾斜計による地殻変動観測では、1月以降、山体が隆起する傾向がみられている。伸縮計では、1月1日頃から山体の膨張が継続している。GNSSによる観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していたが、2015年1月から伸びの傾向がみられる。島内では、2015年1月上旬頃から伸びの傾向がみられる。

鹿児島地方気象台における月(合計)降灰量は、1月が14g/m²、2月が13g/m²、3月が72g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、1月が約60万トン、2月及び3月が70

万トンであった。

口永良部島 (30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E)

新岳火口の噴煙活動は、2014年8月3日の噴火以降、やや活発となっており、噴煙の高さの最高は1,000mであった。

口永良部島の新岳では、3月24日以降の夜間から明け方にかけて、遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を観測した。火山性地震は時々発生しており、1月には35回、2月には18回、3月には58回観測された。火山性微動は観測されなかった。

今期間に実施した現地調査では、新岳火口及び西側割れ目付近や、新岳の南西斜面で噴気を確認した。

3月23日から福岡管区気象台、鹿児島地方気象台、気象庁機動観測班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、赤外熱映像装置による観測で、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域内で温度の上昇が認められた。また、3月25日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が第十管区海上保安本部の協力を得て、口永良部島上空からの観測を実施した結果、赤外熱映像装置による観測では、新岳火口西側部分の熱異常域内で、前回（2014年12月18日）に比べて温度の上昇が認められた。また、新岳火口内で新たな熱異常域を確認した。

2月27日及び3月29日に実施した光波距離計による観測では、KERE4が基準点から遠ざかっているのを観測した。このことは新岳の膨張又は古岳の収縮を示している可能性がある。

GNSSによる観測では、山麓の観測点による基線長変化では、2014年12月頃から一部の基線にわずかな伸びの傾向が認められる。

今期間に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、400～3,700トンと概ね多い状態で経過した。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火が1月4回、2月に12回発生したほか、噴火も時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,500mまで上がった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2月26日に切石港（御岳の南約3.5km）で降灰が確認された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責：気象庁地震火山部火山課 輪島久仁子)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【東京工業大学火山流体研究センター】

1. 募集職種：研究員・1名
2. 資格等条件：平成27年4月1日現在35歳未満で、かつ着任時に博士の学位を有すること。
3. 業務内容：当センターの関連する研究分野における研究を行う。

詳細は以下を参照。 <http://www.ksvo.titech.ac.jp/>

4. 勤務予定地：

火山流体研究センター草津白根火山観測所（群馬県吾妻郡草津町草津 641-36）

あるいは火山流体研究センター（東京都目黒区大岡山 2-12-1）

5. 応募書類 以下の通り。応募書類は返却しない。

- (1) 履歴書(写真貼付)：学歴(高校卒業以降)、職歴、資格、賞罰
- (2) 業績目録：査読論文、査読なし論文、学会発表に分類すること。
- (3) これまでの研究の概要および今後の研究の抱負(各A4で1枚)
- (4) 主要論文別刷：5編以内

6. 応募方法：封筒に「火山流体研究センター研究員応募書類在中」と朱書し、提出先宛に簡易書留で郵送

7. 応募締切：平成27年3月13日(金)必着
8. 選考方法：書類選考による。面接をすることもある。
9. 内定通知：3月23日(月)までに通知
10. 雇用期間：平成27年4月1日以降なるべく早い時期～平成27年3月31日

※更新の可能性有り(ただし、最長で3年間)

11. 給与：月額約30万円

12. 勤務時間等

週5日・週10時間の勤務、休日(土日、祝日、年末年始(12/29～1/3))

有給休暇及びその他の休暇制度あり

13. 社会保険等：労働者災害補償保険

14. 応募書類提出先(簡易書留で郵送すること)：

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学火山流体研究センター 小川康雄

15. 問い合わせ先：火山流体研究センター 小川康雄 oga@ksvo.titech.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月3日送信しました)

【福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所】

職 種：アルバイト職員（非常勤）

募集人員：1名

勤務場所：福岡大学七隈キャンパス（福岡市城南区）

応募資格：

学歴・年齢不問。地球惑星科学、地理学、情報工学のいずれかの手法から噴火史情報学を確立する意欲があり、これらの分野から科研費を申請できる方。産学官連携を踏まえた噴火史情報学に関する NPO 法人設立に興味のある方。

研究分野：

地球惑星科学、地理学、情報工学およびそれらの関連分野

本研究所の研究者等の詳細については、HP (<http://www.acrifis-ehai.fukuoka-u.ac.jp/EHI/>) や FB (<http://www.facebook.com/EHAIReseachCenter>) を参照のこと。

職務内容：

本研究所のホームページ管理、試料や分析データの整理など。また、本研究所の研究者と協力して、新しい領域である噴火史情報学を確立する。本研究所の小委員会での審議を経て、科研費の申請資格を付与する予定。

着任時期：2015年6月1日以降できるだけ早い時期

任 期：2015年6月1日～2016年3月31日まで

※以後、更新する場合あり（本研究所は2016年度まで設置が認められている）

勤務形態：週12時間勤務（週3日程度）

※土・日曜、祝日、年末年始、夏季休業日を除く
給与・手当等：月額4万円程度

（その他の手当、賞与、退職手当は支給しません）

社会保険：労災保険に加入

必要書類：

1. 履歴書：氏名、生年月日、住所、連絡先（電話と e-mail を記載）、写真貼付、学歴（高校卒業以降）、職歴、資格、賞罰など
2. 勤務に向けての抱負（A4、一枚）
3. 学会発表や学術論文などのリスト（様式自由）

応募方法：

上記書類を pdf ファイル（同一ファイル）で下記の応募先に送付する。

e-mail：okuno@fukuoka-u.ac.jp

応募締め切り：2015年5月8日（金）17時

問合せ先：

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所

所長 奥野 充

電話番号：092-871-6631（内線：6289）

e-mail：okuno@fukuoka-u.ac.jp

その他：

応募書類は、採用審査にのみ使用します。第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月8日送信しました）

【産業技術総合研究所 地質調査総合センター】

テニユアトラック型研究員（任期付）またはパーマネント型研究員（任期無）

課題名：地質学的調査に基づく噴火履歴の解明に関する研究

採用予定：原則として平成28年4月1日

野外調査を中心とした新生代火成岩地域の地質学研究を実施した経験があり、日本列島における活動的火山を含めた火山地域の噴火履歴の解明と当該地域の地質図作成を実施する研究者を募集する。

詳細はこちら：

http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/task/6_gsj.html#koumoku2

基本的に任期は5年ですが、候補者の経歴や業績等を勘案した上で、任期の短縮（たとえば3年間）、または任期の定めのない職員（パーマネント型：定年制）としての採用を提示することがあります。

テニユアトラック型については、任期終了の概ね1年半前に、任期終了後に引き続き任期の定めのない定年制の研究員となるための審査（以下「パーマネント化審査」という。）を受けることが可能です。パーマネント化審査は、任期期間中の実績や産総研ミッションへの貢献を考慮して行います。これまでのパーマネント化審査の合格率は概ね90%です。

このほか多数の地球科学関連公募があります。詳細は上記 URL からご覧ください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月14日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種：技術職員2名

2. 勤務場所：東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所

3. 職務内容：本件で求める技術職員の職務内容は下記の通りです。

地震や地殻変動などの地球物理現象を観測するため、野外で観測機器の設置、調整などを行うことが主たる業務です。作業場所には、火山や海域（船上）が含まれます。さらに、様々な機器を用いた観測だけでなく、取得した観測データの基本的な処理・解析、古記録を含む地震記録の整理およびアーカイブの構築と公開、観測機器等の管理、既存の観測施設の点検・保守も業務に含まれます。地震や火山噴火現象に興味を持ち、その解明に熱意をもつ人、観測・データ処理・データ解析等の技術の向上に意欲と能力を持つ人を望みます。野外での観測・調査活動、計測や計測機器開発、電子工作やソフトウェア・プログラミングなど、地球物理観測業務に応用できる経験や技術を有する者は、その専門を問いません。

4. 応募資格：

4年制大学理工系学部卒業以上で、2年程度以上、上記の地球物理観測業務に応用できる職務経験を有すること。なお、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含みます。平成28年3月修士課程修了見込みの方の応募も歓迎します。

5. 応募期限：平成27年7月17日（金）正午必着
6. 採用予定時期：平成28年4月1日
7. 応募書類：

- 1) 履歴書（東京大学統一履歴書フォーマット）

下記 URL よりダウンロードしてください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学統一履歴書フォーマット

- 2) 小論文（書式自由）

本公募に応募した理由2,000字以内

- 3) 職務経歴書（書式自由）

経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述

* 連絡に使用しますので、連絡用メールアドレスを必ず記入してください。

8. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後、第二次面接試験日時等は第一次面接試験後、に合格者へ個別に連絡しますが、下記の日程を予定しています。

- 1) 第一次面接試験：平成27年8月1日（土）
2) 第二次面接試験：平成27年8月7日（金）

※適任者がいない場合、決定を保留します。

9. 勤務条件等

下記 URL を参照してください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/recruit/info/kinmu_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学職員採用試験・国立大学法人等職員採用試験 > 働く環境 > 勤務条件・福利厚生

10. 応募書類提出先及び問合せ先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム（人事）

電話：03-5841-5668 E-mail：jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員応募】と朱書きし、書類提出先まで送付して下さい。

原則として、応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

11. 地震研究所の説明

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/laboratory/history.html

12. 地震研究所技術部の職員からメッセージ

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/message/syoukai.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月1日送信しました）

○その他の公募

【日本学術振興会 育志賞に関する募集】

会員各位

日本火山学会では「日本学術振興会 育志賞」に学会から推薦する大学院生を募集いたします。

育志賞は博士後期課程大学院生を対象とした賞で、受賞者には賞状・賞牌のほか副賞として学術奨励金110万円が贈られます。

また、希望により翌年度から特別研究員等に採用されます。

候補者の条件や賞の詳しい内容につきましては下記 URL をぜひご覧ください。

博士課程大学院生の皆様におかれましては、奮ってお申込みください。

とくに女性大学院生の方は応募を積極的にご検討ください。

【応募要領】

・次の書類を作成して学会事務局まで電子メールでお送りください。

候補者情報（日本学術振興会育志賞推薦書「様式2」のうち、1ページ目相当の内容）

研究の概要（育志賞推薦書様式の「様式4」）

・申し込みのあった方の中から、推薦する者（1名）を

理事会で決定します。

- ・ 募集締め切り 2015年5月25日(月)
- ・ 問い合わせ・書類送り先: 日本火山学会事務局
(kazan-gakkai@kazan.or.jp)
- ・ なお, 所属大学から推薦されることになっている場合は, そのことも付記してください。
- * 日本学術振興会育志賞 URL
<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月20日送信しました)

○文部科学省地域防災対策支援研究プロジェクト 平成27年度事業実施内容について

平成27年度 地域防災対策支援研究プロジェクト

地域の防災力向上に資する人材育成を含む研究成果を活用した防災・減災対策の検討(火山災害に対して)

職務内容・応募資格等の詳細については文部科学省調達総合案内ホームページをご参照ください。

<http://www-gp03.mext.go.jp/MextKoboHP/list/kp010000.asp>
(調達総合案内>物品・役務等の調達情報>企画競争・公募等情報検索>掲載日:平成27年3月31日)

公募スケジュール

- 3月31日 公募開始
- 4月17日 公募説明会 旧文部省庁舎 2F 第2会議室
10:30~
- 5月14日 参加表明書提出期限 17:00まで
- 5月15日 企画提案書等提出期限 17:00まで
- 6月4日 公募選定委員会 13:00~(場所は調整中)
- 6月下旬 選定結果通知
- 8月1日 契約締結

問合せ先

文部科学省研究開発局地震・防災研究課管理係 伏見
電話:03-6734-4111(代)(内線4135)

FAX:03-6734-4139

E-mail:fushimi@mext.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月6日送信しました)

○シンポジウム等の開催案内

【ブルーアース2015】開催について(海洋研究開発機構)

独立行政法人海洋研究開発機構(以下「JAMSTEC」)では, JAMSTECの船舶等で得られた研究成果について, 研究分野の枠を越えた情報交換の場を提供することを目的として「ブルーアース2015」を開催します。

1. 開催日時:平成27年3月19日(木)10:00~17:25
(9:30開場)

平成27年3月20日(金)10:00~17:55
(9:30開場)

2. 開催場所:東京海洋大学 品川キャンパス
3. 入場料:無料(事前申込不要)要旨集を会場で配布いたします。
4. ホームページ:<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/blueearth/2015/program.html>

要旨集は会場で配布しますが, 下記 URL からダウンロード出来ます。(目次および発表番号の入った最終版要旨は3月上旬に下記 URL にUP 予定です)
<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/blueearth/2015/pdf/abstracts.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月23日送信しました)

【日本堆積学会2015年つくば大会のお知らせ】

皆様(重複受信の方はご容赦下さい)

日本堆積学会2015年つくば大会(於:筑波大学大学会館)を2015年4月24日~27日に開催いたします。ショートコースや巡検なども企画されています。皆さまお誘い合わせのうえ, 多数ご参加ください。

内容についての第1報は下記, 学会ホームページをご覧ください

<http://sediment.jp/04nennkai/2015/annai.html>

日本堆積学会行事委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月23日送信しました)

【第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム “The 4th Asia-Pacific Geoparks Network San'in Kaigan Symposium”

日時:2015年9月16日(水)~20日(日)

会場:9月17日(木):

豊岡市民会館(豊岡市立野町20-34)ほか

9月19日(土):

鳥取環境大学(鳥取市若葉台北1-1-1)

主催:第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会

アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)

日本で初めての開催のアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムは, 山陰海岸ジオパークを舞台として, アジア各国のジオパーク関係者を中心に, 世界各地の新たなジオパークの候補地及びジオパークに関心を持つ人々が活発な意見交換を行うとともに交流を深めていきます。また, 日本ジオパークネットワーク加盟のジオパークの活動状況や活動の成果をアジア太平洋地域に広

く発信していきます。

セッションテーマに「ジオハザードと防災・減災」も設けております。

ジオパークに関係のある、また関心のある皆様のご参加をお待ちしております。

【シンポジウム詳細・お申し込み】

WEB サイト ⇒ <http://apgn2015-jpn.com/>

講演申込メ切：4月30日（木）

参加登録メ切：7月31日（金）

【お問い合わせ先】

第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会事務局

（山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局内）

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町 7-11（兵庫県豊岡総合庁舎内）

TEL：0796-26-3629

FAX：0796-26-3785

E-mail：geopark@pref.hyogo.lg.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月23日送信しました）

【2015 アジア太平洋地域地震火山ハザード・リスク情報国際ワークショップ】

日時：2015年3月16日（月）9：40-18：45

場所：仙台市東京エレクトロンホール宮城 602 会議室

2015年3月14-18日に仙台市において、第3回国連防災世界会議が開催されます。

この世界会議は、今後10年間の世界における防災戦略（ポスト2015年防災枠組）を策定する重要な会議です。G-EVER コンソーシアムと産総研地質調査総合センターは、国連防災世界会議のパブリックフォーラムの1つとして、2015 アジア太平洋地域地震火山ハザード・リスク情報国際ワークショップを開催し、今後のアジア太平洋地域における地震火山のハザード・リスクに関する国際標準、共有化、評価システム等を議論することとしました。

プログラムや講演要旨集は、下記のHPをご覧ください。

<http://g-ever.org/ja/workshop/>

皆さんのご参加をお待ちしております。

問い合わせ先：

産総研地質調査総合センター

G-EVER 推進チーム

Tel：029-861-3985

Email：g-ever-ml@aist.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月3日送信しました）

【地震・噴火現象の解析と数値シミュレーション】に関するセミナー】

日時：2015年4月23日（木）13：00～17：00

会場：中央大学駿河台記念館 330 号室

（東京都千代田区神田駿河台3丁目11-5

http://www.tsukyo.chuo-u.ac.jp/access/route_jr_ochanomizu.html）

主催：アドバンスソフト株式会社

参加費：無料

定員：50名（先着順、事前に電子メールで office@advancesoft.jp へてお申し込みください）

セミナーの趣旨

数値シミュレーションを使って地震や噴火の発生過程を解明し予測するための研究や技術開発が進んでいます。本セミナーは防災科学研究所の藤田英輔博士をお招きし、アドバンスソフト社が開発してきた技術も含めて、シミュレーションの役割、防災への活用、技術開発の動向などに関する情報提供と議論の場としたいと考えております。この問題に興味をもたれる多数の方々の参加を歓迎いたします。

プログラム

13：00～13：10	主催者あいさつ	松原 聖
13：10～13：45	シミュレーションによる自然災害の解明と予測	井田喜明
13：45～14：20	有限要素法による震源やマグマ発生源のシミュレーション	菊池愛子
14：20～14：55	爆発的な噴火を導くマグマ上昇流の3次元シミュレーション	湊 明彦
14：55～15：10	休憩	
15：10～15：45	火山爆発に伴う圧力変動や衝撃波の伝播計算	中森一郎
15：45～16：35	噴火予知と火山防災研究の動向	藤田英輔
16：35～17：00	総合討論	

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月19日送信しました）

【「衛星系研究会：衛星系と噴火現象」のお知らせ（1st circular）】

日時：2015年7月21日（火）-22日（水）

場所：北海道大学 低温科学研究所（札幌）

主催：低温科学研究所（共同利用研究集会）

〈招待講演者（敬称略）〉

栗田 敬（東大）

「衛星火山と潮汐相互作用（仮）」

寅丸敦志（九大）

「地球における噴火現象（仮）」

土屋史紀（東北大）

「ひさき衛星がとらえた衛星イオの火山活動変動」

木村智樹（理研）

「衛星周囲のプラズマ環境と惑星-衛星電磁相互作用」

（この他にも一般講演を広く募集します）

〈会場〉

北海道大学 低温科学研究所 講堂

<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/access.html>

〈参加費〉

懇親会費用：3,000 円程度を予定

（懇親会は初日（21 日）夜、低温研内で行う予定です）

〈参加申込〉

申込締切：

6 月 21 日（日） 発表有り or 旅費支援あり

7 月 15 日（水） 発表無し and 旅費支援無し

（懇親会の人数把握のため、発表無しの場合も登録にご協力下さい。）

申込方法：CPS ホームページから参加登録を行って下さい（以下（1）（2））。

（登録後も修正・削除は可能ですので、早めのご登録をお願いいたします）

（1）CPS サーバのアカウントを既にお持ちの方は（2）へ

お持ちでない方は、以下の URL からアカウントを取得ください

https://www.cps-jp.org/signup/satellite_2015

「簡易ユーザ登録申込入力」のページでは必須項目のみ記入して頂ければ結構です。

（2）参加申込方法

* CPS ホームページ <https://www.cps-jp.org/> にアクセス

* 右側サイドメニューからログイン

* 右側サイドメニューの「会議開催案内」の中の「衛星系研究会 2015：…」をクリック

* 参加申込・登録作業

- 講演の有無、講演タイトル、旅費補助の要不要などを記入。

- 最後に「確認」、「更新」ボタンを押すのを忘れなく。

〈問い合わせ先〉

衛星系研究会世話人 satellite-oc@cps-jp.org

〈備考〉

旅費の支援が可能です。希望する方は申込時に選択して下さい。

ただし、財源は限られていますので、若手・発表者

の方を優先とさせていただきます。また旅程には制限がつくことがあります。

支援の可否は世話人にご一任頂くことを予めご了承下さい。

〈世話人〉

谷川享行（産業医科大）、木村 淳（東工大 ELSI）、奥住 聡（東工大）

倉本 圭（北大）、大槻圭史（神戸大）、田中秀和（北大）、関根康人（東大）

〈研究会 website〉

<https://www.cps-jp.org/~satellite/index2015.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 14 日送信しました）

【第 59 回粘土科学討論会】

主 催：日本粘土学会

共催・後援：資源・素材学会、資源地質学会、ゼオライト学会、地盤工学会、日本化学会、日本火山学会、日本鉱物科学会、日本セラミックス協会、日本セラミックス協会資源・環境関連材料部会、日本第四紀学会、日本地学教育学会、日本地球化学会、日本地質学会、日本土壤肥料学会、日本熱測定学会、日本ペドロジー学会、農業農村工学会、日本薄片研磨片技術研究会、応用地質学会、山口大学、山口大学理学部、山口大学理学部後援会（順不同、予定）

会 期：2015 年 9 月 2 日（水）～5 日（土）

会 場：山口大学理学部・人文学部

詳細は HP をごらんください。

主要日程：

講演の申込期間 6 月 15 日（月）～7 月 10 日（金）

講演要旨送付締切 7 月 24 日（金）

参加登録料（要旨集代込）・懇親会費・見学会費の払込期間 6 月 15 日（月）～7 月 24 日（金）

討論会・見学会 9 月 2 日（水）～5 日（土）

問合先：〒753-8512 山口市吉田 1677-1

山口大学理学部内 第 59 回粘土科学討論会実行委員会

Fax：083-933-5729

メールアドレス：claysci@yamaguchi-u.ac.jp

URL <http://www.cssj2.org/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 21 日送信しました）

○国立 19 大学地球科学系学科学科長・代表者会議

「地学教育におけるフィールドワークの重要性についての声明」についてお知らせいたします。

平成 27 年 3 月 1 日

国立 19 大学地球科学系学科学科長・代表者会議

(弘前大学, 秋田大学, 山形大学, 茨城大学, 千葉大学, 新潟大学, 信州大学, 静岡大学, 富山大学, 金沢大学, 神戸大学, 岡山大学, 島根大学, 山口大学, 高知大学, 愛媛大学, 熊本大学, 鹿児島大学, 琉球大学)

「地学教育におけるフィールドワークの重要性についての声明」

自分たちが住む町の山河の成り立ちについて、日本国民ひとりひとりが、どれだけ関心をもち、理解しているでしょうか。多くの国民は河川の氾濫原に居住しています。日本列島では、地震・津波・噴火・土砂災害など、地質災害がたびたび起きています。過去のこれらの現象も身の回りの地層や岩石に記録されています。その土地の過去の地質現象が正しく理解されていれば、被害が軽減されるに違いありません。地質災害の発生後にみられる風評被害の中には、地学教育が浸透していれば起きなかつたはずのものも少なからず見受けられます。

日本列島には 110 の活火山があり、世界で発生する地震の約 21% が日本列島周辺で発生しています。これは日本列島が 4 つのプレートが関連するプレート収束域にあたり、火山活動や構造運動の活発な「変動帯」にあることに関係しています。日本列島の地層や岩石はユーラシア大陸の東縁で発達し、現在の弧状に並んだ島々が形成されてきました。その形成史は、日本列島の地層・岩石・地形といった形で、日本列島そのものに記録されています。地質学者は地層や岩石を観察することで、その歴史を読み解くことができます。

地学教育においては、地層や岩石に記録されている「過去の事件の証拠」を読み解き、時系列で組み立て、理解する力をつけさせることが重要です。それには (1) 岩石・地層・化石などを識別できる能力、(2) 岩石や地層が形成された順序、当時の環境、地下深部における岩石の変形や変成など読み取って、地下のメカニズムをと きあかし、地球史のストーリーを矛盾なく組み立てる能力、(3) それらの意味を地球システム全体のなかで理解できる能力、が必要です。これらの修得には座学だけではなく、特に (1) (2) には、実際に野外に出かけ、実物を観察するプロセスが欠かせません。(3) には、地球史を 46 億年の時間軸で捉え、何億年、何千万年といったタイムスケールで理解し、地球全体を俯瞰して考える能力が必要です。この素養も、厚い地層の積み重なりを観察するといった、自然観察なしには身に付きません。天然のものから何を読み取るか、それは自然科学にとって根本的かつ最も重要な能力です。机上でどんなにすばら

しくみえる考えであっても、目の前の実際の地層や岩石を説明できないものは修正しなくてはならないのです。

近年、高校教育では、地学分野の履修者が激減しています。大学教育では、安全管理の難しさ、人員不足、経済的負担などが、野外実習の実施の障壁になりつつあります。しかしながら、変動帯にある日本においては、地学教育・フィールドワークは必須と考えます。たとえば御嶽山噴火災害の際には、それぞれの活火山の「ホームドクター」が不足している事が指摘されました。これはフィールドワークのできる人材不足の反映でもあります。

国立 19 大学地球科学系学科代表者会議は、自然の情報を読み解き、筋道だてて考えられる人材を育成する教育が重要であると考え、今後もフィールドに根ざした教育を推進してゆくと共に、国を挙げてフィールド教育が更に促進されることを求めます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 21 日送信しました)

○ EPS 関係

Contents Service : Earth, Planets and Space, Vol. 66, December 2014 & Vol. 67 January 2015

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents : Vol. 66, 67

Published : December 2014 & January 2015

Manuscript No. 155, 156, 158-164, 1-15

Impact Factor 3.06

<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Full paper

Observed geomagnetic induction effect on Dst-related magnetic observations under different disturbance intensities of the magnetospheric ring current

Dan Xu, Huaran Chen, Mengtan Gao

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 15 (30 January 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/15>

Full paper

Tracing of paleo-shear zones by self-potential data inversion : case studies from the KTB, Rittsteg, and Grossensees graphite-bearing fault planes

Salah A Mehance

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 14 (30 January 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/14>

Full paper

- Geomagnetic observatory monthly series, 1930 to 2010 : empirical analysis and unmodeled signal estimation
Jiaming Ou, Nicolas Gillet, Aimin Du
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 13 (30 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/13>
Letter
Towards understanding the dynamical evolution of asteroid 25143 Itokawa : constraints from sample analysis
Harold C Connolly, Dante S Lauretta, Kevin J Walsh, Shogo Tachibana, William F Bottke
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 12 (27 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/12>
Full paper
A new leveling method without the direct use of crossover data and its application in marine magnetic surveys : weighted spatial averaging and temporal filtering
Takemi Ishihara
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 11 (27 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/11>
Full paper
Does the South Atlantic Anomaly influence the ionospheric Sq current system? Inferences from analysis of ground-based magnetic data
Stephan Koch, Alexey Kuvshinov
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 10 (22 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/10>
Full paper
Pc5 geomagnetic fluctuations in response to solar wind excitation and their relationship with relativistic electron fluxes in the outer radiation belt
Mauro Regi, Marcello De Lauretis, Patrizia Francia
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 9 (22 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/9>
Frontier letter
Insight into landslide kinematics from a broadband seismic network
Cheng-Horng Lin
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 8 (17 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/8>
Frontier letter
Q P structure of the accretionary wedge in the Kumano Basin, Nankai Trough, Japan, revealed by long-offset walk-away VSP
Ryota Hino, Takeshi Tsuji, Nathan L Bangs, Yoshinori Sanada, Jin-Oh Park, Roland von Huene, Gregory F Moore, Eiichiro Araki, Masataka Kinoshita
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 7 (17 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/7>
Letter
Imaging the hydrothermal system beneath the Jigokudani valley, Tateyama volcano, Japan : implications for structures controlling repeated phreatic eruptions from an audio-frequency magnetotelluric survey
Kaori Seki, Wataru Kanda, Yasuo Ogawa, Toshiya Tanbo, Tomokazu Kobayashi, Yuta Hino, Hideaki Hase
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 6 (15 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/6>
Letter
Mineralogy of some evolved LL chondrites with reference to asteroid materials and solar system evolution
Hiroshi Takeda, Hiroshi Nagaoka, Akira Yamaguchi, Yuzuru Karouji, Yuuki Yazawa
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 5 (13 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/5>
Letter
Tsunami modeling from the seismic CMT solution considering the dispersive effect : a case of the 2013 Santa Cruz Islands tsunami
Takayuki Miyoshi, Tatsuhiko Saito, Daisuke Inazu, Sachiko Tanaka
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 4 (13 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/4>
Full paper
Global thermospheric disturbances induced by a solar flare : a modeling study
Huijun Le, Zhipeng Ren, Libo Liu, Yiding Chen, Hui Zhang
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 3 (8 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/3>
Technical report
The capacity-building and science-enabling activities of the IUGONET for the solar-terrestrial research community
Akiyo Yatagai, Yuka Sato, Atsuki Shinbori, Shuji Abe, Satoru UeNo, IUGONET project team
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 2 (8 January 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/2>
Full paper
Fast and ultrafast Kelvin wave modulations of the equatorial evening F region vertical drift and spread F development
Mangalathayil A Abdu, Christiano Brum, Paulo P Batista, Subramanian Gurubaran, Dora Pancheva, Jose V Bageston, Inez S Batista, Hisao Takahashi
Earth, Planets and Space 2015, 67 : 1 (6 January 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/1>

Full paper

Concentration of electrostatic solitary waves around magnetic nulls within magnetic reconnection diffusion region : single-event-based statistics

Shiyu Li, Shifeng Zhang, Hong Cai, Sufang Yu
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 161 (31 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/161>

Full paper

Reproducing electric field observations during magnetic storms by means of rigorous 3-D modelling and distortion matrix co-estimation

Christoph Püthe, Chandrasekharan Manoj, Alexey Kuvshinov
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 162 (23 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/162>

Letter

The mineralogy and space weathering of a regolith grain from 25143 Itokawa and the possibility of annealed solar wind damage

Dennis Harries, Falko Langenhorst
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 163 (16 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/163>

Letter

Approaches for modeling ionosphere irregularities based on the TEC rate index

Iurii Cherniak, Irina Zakharenkova, Andrzej Krankowski
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 165 (12 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/165>

Full paper

Long-term variation in the upper atmosphere as seen in the geomagnetic solar quiet daily variation

Atsuki Shinbori, Yukinobu Koyama, Masahito Nose, Tomoaki Hori, Yuichi Otsuka, Akiyo Yatagai
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 155 (11 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/155>

Letter

Historically largest geomagnetic sudden commencement (SC) since 1868

Tohru Araki
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 164 (9 December 2014)
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/164>

Full paper

Aspect angle sensitivity of pump-induced optical emissions at EISCAT

Michael J Kosch, Carl Bryers, Michael T Rietveld, Timothy K Yeoman, Yasunobu Ogawa
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 159 (4 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/159>

Letter

Three-dimensional magnetotelluric imaging of crustal fluids and seismicity around Naruko volcano, NE Japan

Yasuo Ogawa, Masahiro Ichiki, Wataru Kanda, Masaaki Mishina, Koichi Asamori
Earth, Planets and Space 2014, 66 : 158 (4 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/158>

Full paper

A statistical study of satellite traces and evolution of equatorial spread F

Viswanathan Narayanan, Sukanta Sau, Subramanian Gurubaran, Kazuo Shiokawa, Nanan Balan, Kaliappan Emperumal, Samireddipalle Sripathi

Earth, Planets and Space 2014, 66 : 160 (3 December 2014)
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/160>

Letter

X-ray absorption near edge structure spectroscopic study of Hayabusa category 3 carbonaceous particles

Hikaru Yabuta, Masayuki Uesugi, Hiroshi Naraoka, Motoo Ito, A L David Kilcoyne, Scott A Sandford, Fumio Kitajima, Hajime Mita, Yoshinori Takano, Toru Yada, Yuzuru Karouji, Yukihiko Ishibashi, Tatsuaki Okada, Masanao Abe

Earth, Planets and Space 2014, 66 : 156 (3 December 2014)

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/156>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月11日送信しました)

【Earth Planet Space 2014年御嶽山噴火特集のご案内 The phreatic eruption of Mt. Ontake Volcano in 2014】

2014年9月27日に発生した御嶽山噴火は60名以上の登山者が死者・行方不明となる大惨事となりました。私たちは、今般の噴火をきちんと解明し将来に記録を残すため、Earth Planet Space に特集を企画しました。御嶽山などで発生する水蒸気噴火に関する理解を深めるため、今般の御嶽山噴火に関する研究だけでなく、過去の御嶽山噴火や水蒸気噴火に関する地球物理学・地球化学・地質学・熱学など、多面的な研究論文を是非ご投稿ください。なお、投稿サイトはすでにオープンされており、投稿されたものから順次査読を行います。投稿の最

終メ切は9月30日です。みなさまのご投稿をお待ちしています。

担当編集者は、以下の5人です。

山岡耕春 (名古屋大学)

Steven Ingebritsen (USGS)

及川輝樹 (産総研)

橋本武志 (北海道大学)

下司信夫 (産総研)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月8日送信しました)

【EGU での EPS 誌ブースのご案内】

火山学会会員の皆様、

EPS 誌では、来週 4/12-17 に開催される EGU General Assembly にブースを出展しますので、ご案内します。

場所は Exhibition Gallery, First floor の G03 です。

< http://www.egu2015.eu/egu2015_exhibition_gallery.pdf >

ブースではバックナンバーを集録した DVD の配布の他、アンケート (回答いただいた方には T シャツなどのお土産付き) を企画しています。

EGU に参加される会員のみなさまにはぜひ、海外のご友人と連れ立って訪問いただけましたら幸いです。

EPS 誌の IF (2013) は 3.06 となりました。また、最近の Springer の分析では、日本だけでなく

欧米諸国の研究者にも広く読まれていることがわかりました。会員皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

4/1 からは Editorial Manager での投稿受付が開始されました。

< <http://www.earth-planets-space.com> >

特集号の提案についても歓迎します。

また、EPS 誌掲載の重要論文への引用に漏れが無いが、ご投稿準備中の論文原稿を改めてご確認いただけましたら幸いです。

今後ともどうぞよろしく願いたします。

なお、JpGU でもブース出展を予定しているとのこと。

EPS 誌関係者一同

<http://www.earth-planets-space.org>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月10日送信しました)

【Contents Service : Earth, Planets and Space, Vol. 67 February & March 2015】

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents : Vol. 67

Published : February & March 2015

Manuscript No. 16-44

Impact Factor 3.06

<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Frontier letter

Decreased Sun-Earth energy-coupling efficiency starting from 2006

Masatoshi Yamauchi

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 44 (28 March 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/44>

Full paper

Airglow-imaging observation of plasma bubble disappearance at geomagnetically conjugate points

Kazuo Shiokawa, Yuichi Otsuka, Kenneth Lynn, Philip Wilkinson, Takuya Tsugawa

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 43 (26 March 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/43>

Full paper

Impacts of solar activity on performance of the IRI-2012 model predictions from low to mid latitudes

Sanjay Kumar, Eng Tan, Dhimas Murti

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 42 (21 March 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/42>

Full paper

Velocity increase in the uppermost oceanic crust of subducting Philippine Sea plate beneath the Kanto region due to dehydration inferred from high-frequency trapped P waves

Shunsuke Takemura, Kazuo Yoshimoto, Takashi Tonegawa

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 41 (18 March 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/41>

Letter

Seismotectonic study of the Fergana Region (Southern Kyrgyzstan) : distribution and kinematics of local seismicity

Christian Feld, Christian Haberland, Bernd Schurr, Christian Sippl, Hans-Ulrich Wetzel, Sigrid Roessner, Michèle Ickrath, Ulan Abdybachev, Sagynbek Orunbaev

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 40 (18 March 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/40>

Full paper

Estimation of slip rate and fault displacement during shallow earthquake rupture in the Nankai subduction zone

Yohei Hamada, Arito Sakaguchi, Wataru Tanikawa, Asuka Yamaguchi, Jun Kameda, Gaku Kimura

- Earth, Planets and Space 2015, 67 : 39 (13 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/39>
- Frontier letter
- Dynamic faulting on a conjugate fault system detected by near-fault tilt measurements
 Eiichi Fukuyama
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 38 (10 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/38>
- Full paper
- Post-seismic ionospheric response to the 11 April 2012 East Indian Ocean doublet earthquake
 Anakuzhikkal Sunil, Mala S Bagiya, Chappidi Reddy, Manish Kumar, Durbha Ramesh
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 37 (5 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/37>
- Letter
- Harmonics of whistler-mode waves near the Moon
 Yasunori Tsugawa, Yuto Katoh, Naoki Terada, Hideo Tsunakawa, Futoshi Takahashi, Hidetoshi Shibuya, Hisayoshi Shimizu, Masaki Matsushima
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 36 (4 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/36>
- Full paper
- Patterns of GPS-TEC variation over low-latitude regions (African sector) during the deep solar minimum (2008 to 2009) and solar maximum (2012 to 2013) phases
 Yekoye Tariku
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 35 (4 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/35>
- Full paper
- A method to calculate zero-signature satellite laser ranging normal points for millimeter geodesy - a case study with Ajisai
 Daniel Kucharski, Georg Kirchner, Toshimichi Otsubo, Franz Koidl
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 34 (1 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/34>
- Full paper
- Long-period ground motions in a laterally inhomogeneous large sedimentary basin : observations and model simulations of long-period surface waves in the northern Kanto Basin, Japan
 Shunsuke Takemura, Mai Akatsu, Kei Masuda, Kengo Kajikawa, Kazuo Yoshimoto
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 33 (1 March 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/33>
- Letter
- Dispersion relation as a channel of plasma turbulence evolution
 Horia Comişel, Yasuhito Narita, Uwe Motschmann
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 32 (27 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/32>
- Letter
- Regional climate pattern during two millennia estimated from annual tree rings of Yaku cedar trees : a hint for solar variability?
 Yasushi Muraki, Takumi Mitsutani, Shoichi Shibata, Syuichi Kuramata, Kimiaki Masuda, Kentaro Nagaya
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 31 (27 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/31>
- Full paper
- Multiple damage zone structure of an exhumed seismogenic megasplay fault in a subduction zone - a study from the Nobeoka Thrust Drilling Project
 Mari Hamahashi, Yohei Hamada, Asuka Yamaguchi, Gaku Kimura, Rina Fukuchi, Saneatsu Saito, Jun Kameda, Yujin Kitamura, Koichiro Fujimoto, Yoshitaka Hashimoto
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 30 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/30>
- Full paper
- Monthly GRACE detection of coseismic gravity change associated with 2011 Tohoku-Oki earthquake using northern gradient approach
 Jin Li, Wen-Bin Shen
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 29 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/29>
- Full paper
- Anisotropic Rayleigh-wave phase velocities beneath northern Vietnam
 Cédric P Legendre, Li Zhao, Win-Gee Huang, Bor-Shouh Huang
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 28 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/28>
- Full paper
- Comparison of Helmert and rigorous orthometric heights over Japan
 Patroba Odera, Yoichi Fukuda
 Earth, Planets and Space 2015, 67 : 27 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/27>
- Full paper
- Development of a borehole stress meter for studying earthquake predictions and rock mechanics, and stress seismograms of the 2011 Tohoku earthquake (M9.0)

Hiroshi Ishii, Yasuhiro Asai

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 26 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/26>

Letter

Effect of stress state on slow rupture propagation in synthetic fault gouges

Ken-ichi Hirauchi, Jun Muto

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 25 (24 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/25>

Full paper

Sensitivity of geomagnetically induced currents to varying auroral electrojet and conductivity models

Ciarán D Beggan

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 24 (15 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/24>

Frontier letter

Compound auroral micromorphology : ground-based high-speed imaging

Ryuhō Kataoka, Yoko Fukuda, Yoshizumi Miyoshi, Hiroko Miyahara, Satoru Itoya, Yusuke Ebihara, Donald Hampton, Hanna Dahlgren, Daniel Whiter, Nickolay Ivchenko

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 23 (15 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/23>

Letter

Statistical study of medium-scale traveling ionospheric disturbances using SuperDARN Hokkaido ground backscatter data for 2011

Alexey V Oinats, Vladimir I Kurkin, Nozomu Nishitani

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 22 (15 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/22>

Full paper

Polarization analysis of VLF/ELF waves observed at sub-auroral latitudes during the VLF-CHAIN campaign

Claudia Martinez-Calderon, Kazuo Shiokawa, Yoshizumi Miyoshi, Mitsunori Ozaki, Ian Schofield, Martin Connors

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 21 (11 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/21>

Letter

A micro-Raman and infrared study of several Hayabusa category 3 (organic) particles

Fumio Kitajima, Masayuki Uesugi, Yuzuru Karouji, Yukihiro Ishibashi, Toru Yada, Hiroshi Naraoka, Masanao Abe, Akio Fujimura, Motoo Ito, Hikaru Yabuta, Hajime Mita, Yoshinori Takano, Tatsuaki Okada

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 20 (11 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/20>

Full paper

A case study on occurrence of an unusual structure in the sodium layer over Gadanki, India

Sumanta Sarkhel, John D Mathews, Shikha Raizada, Ramanathan Sekar, Dibyendu Chakrabarty, Amitava Guharay, Geonhwa Jee, Jeong-Han Kim, Robert B Kerr, Geetha Ramkumar, Sundararajan Sridharan, Qian Wu, Martin G Mlynczak, James M Russell

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 19 (11 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/19>

Letter

High-midlatitude ionosphere response to major stratospheric warming

Boris G Shpynev, Vladimir I Kurkin, Konstantin G Ratovsky, Marina A Chernigovskaya, Anastasiya Belinskaya, Svetlana A Grigorieva, Alexander E Stepanov, Vasily V Bychkov, Dora Pancheva, Plamen Mukhtarov

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 18 (11 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/18>

Letter

Small-scale stress fluctuations in borehole breakouts and their implication in identifying potential active faults around the seismogenic megasplay fault, Nankai Trough, SW Japan

Yasuhiro Yamada, Jun Shibamura

Letter

In situ thermal excursions detected in the Nankai Trough forearc slope sediment at IODP NanTroSEIZE Site C0008

Masataka Kinoshita, Hiroaki Fukase, Shusaku Goto, Tomohiro Toki

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 17 (6 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/17>

Letter

In situ thermal excursions detected in the Nankai Trough forearc slope sediment at IODP NanTroSEIZE Site C0008

Masataka Kinoshita, Hiroaki Fukase, Shusaku Goto, Tomohiro Toki

Earth, Planets and Space 2015, 67 : 16 (5 February 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/16>

【EPS・アンケート】

火山学会会員のみなさま

地学会担当からのお知らせです。

火山学会が、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地震学会、日本測地学会、日本惑星科学会と共同で定期的に発行している欧文誌 EPS 誌についての、アンケート調査があります。お手すきのときに是非回答をお願いいたします。

・ Web 版アンケート URL

< <https://docs.google.com/forms/d/1IYL6F1xKGDz3-az>

FglLw7IHB_iW-wYYBXoKiyA1wI/viewform>

回答は6月5日(金)までをお願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月29日送信しました)

○火山学会賞・研究奨励賞 公募関係

【平成27年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募(再送)】

平成27年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募締切(3月16日)が間近となりましたので、再度お知らせいたします。

=====

特定非営利活動法人日本火山学会会長 井口正人

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成27年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞 (Young Scientist Award) : 火山学に関する優れた論文を発表し、将来、火山学の発展への貢献が期待される本会会員で、平成27年4月1日で35歳以下の者。(今回の公募対象)
2. 日本火山学会賞 (Volcanological Society Award) : 学術研究、学術振興、防災、普及啓発など様々な観点において日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体、非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
3. 日本火山学会論文賞 (Best Paper Award) : 雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中、火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成27年度の対象論文は前3年(2012-2014年)に出版されたものとします。(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記3賞受賞候補者の選考を行い、理事会において決定します。
- ・本年5月に開催される総会(日本地球惑星科学連合2015年大会)において承認された後、賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。

また、研究奨励賞受賞者につきましては、受賞対象となった研究課題に関連する論文(レビュー論文)の「火山」への投稿をお願いします。

推薦の締め切り

平成27年3月16日(月)必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち、1を電子メールの添付ファイル(MS Wordかテキストファイル)として火山学会事務所へ送信下さい。また、2がある場合は郵送あるいはpdfファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は、必ずsubjectに「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は、封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類(様式は自由であるが、必ず以下の項目を含むこと)
 - (1) 推薦対象の賞名(学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述)
 - (2) 被推薦者氏名、生年月日、所属、連絡先、電子メールアドレス。団体の場合は、団体名、連絡先、代表者名とその連絡先などを記述のこと。
 - (3) 被推薦者の学歴、職歴、研究・活動歴。団体の場合は活動歴。
 - (4) 推薦者氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス、被推薦者との関係。自薦の場合は、本人の研究活動(学会賞においては火山学への貢献)を熟知する照会者の氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス(推薦者や照会者は複数であっても構わない)。
 - (5) 受賞対象となる研究課題名(学会賞においては貢献活動名)(40字以内)
 - (6) 推薦理由
 - ・1000字以内で簡潔に推薦の理由、特に、被推薦者(あるいは団体)の研究・貢献活動の火山学における重要性(もしくは評価されるべき点)をできるだけ具体的に記述のこと。
 - ・研究奨励賞においては、対象となる論文(複数可)も明記すること。
 - ・学会賞においては、被推薦者(あるいは団体)の活動に関して、日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。
 - (7) 主要な業績あるいは活動のリスト
 - ・最近のものから通し番号を付して記述する。
 - ・主な業績については、それぞれ、その内容と火山学的位置づけを250字以内で解説すること。
 - (8) 本人の承諾書

- ・他薦の場合は、被推薦者本人（あるいは被推薦団体代表者）が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
- ・研究奨励賞においては、本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解（500字以内）を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・選考のために参考となる客観的資料があれば1部ずつ添えること。
- ・一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9
 モンテベルデ第2 東大前 406号 日本火山学会事務局
 電話/FAX 03-3813-7421
 e-mail : kazan-gakkai@kazan.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 宇都浩三（産業技術総合研究所）
 Tel : 029-862-6041, Fax : 029-862-6045
 e-mail : k.uto@aist.go.jp

選考委員（各賞選考委員会）

大湊隆雄, 鹿野和彦, 清水 洋, 藤縄明彦, 森 俊哉,
 山里 平

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月11日送信しました)

○国際会議セッション提案奨励事業

日本火山学会会員各位

日本火山学会国際委員会

下記ご案内を差し上げます。
 現在、AGUのセッション提案の募集が行われています。
 ご応募お待ちしております。

○国際会議セッション提案奨励事業

趣 旨：国際会議において主提案者としてのセッションの企画提案を行う若手研究者を奨励し、渡航費用の補助を行うことにより、国際会議における日本の火山学の認知度を高めるとともに、世界の火山学において先導的な活躍を行う若手の活動を奨励することにより、日本における火山学の活性化を図ることを目的とする。

渡航補助：1件あたり20万円以内
 件 数：毎年最大2件
 募集時期：随時
 選考基準：学生、ポスドク、若年者優先

承認：理事会の承認

=====
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月24日送信しました)

○日本火山学会 2015 年度第 1 回総会開催のお知らせ

日本火山学会会員各位

地球惑星科学連合大会中の5月26日(大会3日目)13時00分より、国際会議場303号室にて、日本火山学会2015年度第1回総会を実施します。

維持会員の方は出席ください。ご欠席される場合には、学会事務局まで委任状を提出してください。委任状は別途お送りしました往復ハガキにてお送りいただくか、あるいは連合大会会場内の日本火山学会のブースでも記入、提出可能です。なお、維持会員以外の会員も傍聴可能です。

よろしくお願いたします。

議題1：2014年度決算、2015年度予算

議題2：火山学会理事選挙規程の改訂

議題3：2015年度日本火山学会賞、日本火山学会奨励賞、日本火山学会論文賞

報告事項：各委員会からの報告

以上

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月14日送信しました)

○連合大会関係

【JpGU 期間中イベント「日本火山学会主催 キャリアパス・セミナー」のご案内】

日本火山学会では、研究者人材の多様なキャリアパス開拓を推進する活動の一環として、連合大会期間中に下記のセミナーを開催いたします。日本火山学会員以外の方もご参加いただけます。

ぜひご参加ください。

「キャリアパスセミナー～いま省庁や民間企業で求められる火山専門家人材とは？」

日 時：5月27日(水)11時30分～12時45分

場 所：幕張メッセ国際会議場 101B号室

講 師：加藤幸司(気象庁 地震火山部 火山課)

講 師：鴨志田毅(地圏総合コンサルタント 砂防・防災部)

世話人：長谷川健(茨城大)、市原美恵(東大)、久利美和(東北大)、中道治久(京大)

注) お昼休みの時間に掛かりますが、会場は飲食禁止となっておりますため、ご協力をお願い申し上げます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月9日送信しました)

【火山防災シンポジウムのお知らせ】

日本火山学会会員各位

火山防災委員会では地球惑星科学連合2015年大会期間中の5月27日の18:30から以下のように火山防災シンポジウム開催いたします。是非ご参加ください。

日本火山学会火山防災委員会主催

火山防災シンポジウム

日時 5月27日 18:30~20:30

場所 幕張メッセ 304

プログラム

1. 中央防災会議火山防災対策推進ワーキンググループ報告書について(仮題)
内閣府(調整中)
2. 世界の火山ハザード・リスク評価の現状
宝田晋治(産総研)
3. 登山者向けパンフレットに関する報告
萬年一剛(神奈川県温泉地学研究所)
4. 総合討論

お問い合わせ:

日本火山学会火山防災委員会 吉本充宏

myoshi@mfri.pref.yamanashi.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月18日送信しました)

【連合大会・学会受付設置日のお知らせ】

5月24日(日)~5月28日(木)に千葉県美浜区の幕張メッセ国際会議場において開催される日本地球惑星科学連合2015年度大会におきまして、火山学会ブース(幕張メッセ国際会議場1階 学協会デスク No. 8)を設置します。

連合大会学会受付設置日:

5月24日(日)(10:00~17:00)

25日(月)(10:00~15:00)

26日(火)(10:00~17:00)

27日(水)(10:00~17:00)

28日(木)(10:00~15:00)

学会入会申込や現金払いによる会費の納入を受けますので、どうぞご利用ください。

なお、大会期間中は、東京・本郷の火山学会事務局はお休みになりますのでご了承願います。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月20日送信しました)

○「火山」60巻1号 目次・一言メッセージ

「火山」60巻1号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

1. 論説「鳥海火山北麓に分布するラハール堆積物の運搬・堆積過程と構成物質の時間変化」

著者:南 裕介・大場 司・林 信太郎・片岡香子

鳥海火山は東北日本弧の背弧側に位置する大型の成層火山であり、BC466に山体が崩壊し象潟岩屑なだれ堆積物を形成した。

潟岩屑なだれ堆積物を被覆する堆積物として扇状地堆積物が報告されていたが、その層序や運搬・堆積過程の詳細は不明であった。

本研究では、この扇状地堆積物について地形観察と地質調査、及びXRDを用いた鉱物種同定に基づき、鳥海火山北麓の火山麓扇状地を構成する堆積物の分布、産状、層序、構成物の特徴を明らかにし、その運搬・堆積過程の検討を行った。

その結果、扇状地堆積物は鳥海火山に由来する複数回のラハールによって形成されたことが明らかになった。

2. 論説「Geology and Evolution of the Nakajima Islands (Toya Caldera, Hokkaido, Japan) Inferred from Aerial Laser Mapping and Geological Field Surveys」(北海道洞爺カルデラ中島火山の火山地質と形成史:空中レーザーマッピングと地表地質調査による推定)

著者:後藤芳彦・松塚 悟・亀山聖二・檀原 徹

ヘリコプター搭載型の高分解能レーザースキャナを用いて、洞爺カルデラ中島火山のレーザーマッピングを行いました。また、得られた3次元デジタル地形図を基に、詳細な地質調査を行いました。その結果、中島の詳細な火山地質とその形成史が明らかになりました。高分解能レーザースキャナによるマッピング調査は、火山地質の解明に極めて有効です。

3. 論説「Internal Structure of Kuttara Caldera, Hokkaido, Japan」(北海道南西部クッタラカルデラの内部構造)

著者:後藤芳彦・城森 明

クッタラカルデラの内部構造を解明するため、CSAMT法による比抵抗構造探査を行いました。探査はクッタラカルデラを東西方向に横断する測線上で行い、カルデラの深度1000mまでの比抵抗構造が得られました。比抵抗構造から推定されるカルデラの内部構造は東西非対称であり、クッタラ湖の湖底地形と良く対応しています。この非対称なカルデラ

構造は、クッタラ火山の非対称な地質に起因すると考えられます。

4. 解説紹介「第8回火山都市国際会議 参加報告」

著者：中道治久他

インドネシアのメラピ火山では、20世紀以降に数年間隔で溶岩ドーム形成とその崩壊による火砕流が発生している。メラピ火山の南麓のジョグジャカルタ市にて今回の会議が開催された。激しい火山活動と災害が繰り返されるインドネシアにおいて火山との共生を目的として、火山学者が自然から人間社会への橋渡しとして議論をする場であった。最新の学術研究成果のみならず、科学者の災害軽減のための関係者とのコミュニケーションや噴火危機対応のあり方などが議論された。また、火山大国インドネシアらしく多彩な巡検が行われた。

5. 書評「藤岡換太郎著『川はどうしてできるのか』」

著者：佐藤博明

第2部の「川をくだってみよう」では多摩川を例にして、川の始まりから時間を追って、上流の風景、中流の風景、下流の風景、として滝、地形、地質、など様々な問題を総合的に扱っており、著者の博識が諸処に織り込まれ一気に読まされる。川と同じ重力流である溶岩流や火砕流でもこのような視点で記載していくのも一つのやり方のように思った。

学会記事

・平成26年度臨時総会議事録/2014年度秋季大会報告他

日本の火山活動概況（2014年11月～12月）

その他のニュース

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月23日送信しました）